



↑全国の食卓へ届けられるブリ

★ 漁 養殖ブリの出荷最盛期 港が1年で最も活気づく

年の瀬を迎えた12月下旬、本町の養殖ブリの出荷が最盛期を迎えました。

早朝から薄井漁港にはズラリと漁船が横付けされ、陸揚げされたブリが次々と箱に詰められ、大型トラックに積み込まれました。

荷積み終えたトラックはすぐさま漁港を後にして、関東や関西、北陸など全国各地へ旅立ち、日本中の食卓へ本町のブリが届けられました。

今年は餌や石油の高騰で苦しい経営状況に立たされている漁業者ですが、この時期ばかりは勇ましい声を張り上げ、活気に満ちあふれていました。

↓受賞を喜ぶ川上隊長（左から2番目）と学校関係者



★ 地 文部科学大臣奨励賞を受賞 地域の輪を広げたい

文部科学大臣奨励賞を受賞された城小っ子育成支援隊（川上勇隊長）が12月4日、指江庁舎町長室を訪れ町長に受賞の報告をしました。

同隊は、発足当初から十数年にわたって地域に根付いた取組を行ってきました。この功績が学校教育の安全・安心な実施に貢献する優れたものであることが認められました。

川上隊長は「学校は地域のシンボルという思いで地域ぐるみの取組ができた。これからも地域の輪を広げていきたい」と話していました。

★ シ 森林の体験支援活動 シイタケの成長を2年間観察

城川内小学校は11月25日、全校児童と保護者を対象に、森林の体験支援活動を実施しました。

同日は、県や鹿児島いずみ森林組合などの職員を講師に招き、体育館で森林の大切さについてのビデオ鑑賞や講習会を開き、運動場でシイタケの駒打ちを体験しました。

駒打ち体験では、一人1本のクヌギに15カ所ずつドリルで穴をあけ、駒を打ち込みました。シイタケが実際になりはじめるのは約2年後ということで、児童たちは自宅で観察を続けるそうです。



↑駒の打ち方を学ぶ参加者